

令和7年度 第3回学校運営協議会議事録

日時：令和8年2月21日（土）14:00～16:00

場所：大阪府立茨木高等学校 校長室

出席者：【学校運営協議会委員】

添田委員、白鳥委員、柴田委員、中村委員、檜本委員、内田委員

【校長・事務局】

高江洲校長、瀬戸教頭、藤山事務長、森（登）首席、森（佳）首席、林教務主任、
谷口進路指導主事

議事：①今年度の各取組みについて

②令和8年度学校運営協議会日程について

③その他

<質疑応答及び提言>

①今年度の各取組みについて

GLHS 合同発表会・学校設定教科「探究」について

委員：京都大学の大学院生が、2年生の課題研究に1年間通して伴走されていたと説明があった。「生徒に「伴走」するというのが、とても素晴らしいことだと感じた。

事務局：あらゆる場面で、大学院生が生徒たちに対して「研究とはこういうものだ」ということを、示してくれている。大学院生が生徒に寄り添ってくださっていることに感謝したい。

委員：課題研究の担当教員はどのように決まるのか？

事務局：茨木高校では年度当初に各教科から課題研究の担当教員を募る形にしている。

委員：生徒の研究テーマは、教員が決めるのか。

事務局：担当教員は、自身の専門性に合わせた講座を設定する。講座一覧は生徒に提示され、生徒たちは希望に従っていずれかに所属し、その中で興味・関心を持ったテーマを1年間かけて研究することになる。教員自身も生徒たちと一緒に探究している。

委員：生徒たちの研究の成果をもっと広く公開していく方法はないか。

事務局：茨木高校のホームページに課題研究に関するページがある。そのページの更なる充実を図っていきたい。

委員：生徒に「探究」の方法をどのように伝えておられるかをお聞きしたい。

事務局：1年次後期のIBARAMA Iでは、地理歴史科、公民科の教員が宿泊野外行事の内容等についての資料調査について指導し、調査結果をスライド発表する。また同時並行で、生徒が自分たちの研究テーマの研究を通して、いわゆる「探究の過程」を1サイクル回す経験をする。こちらは理科教員が生徒たちの研究の伴走を行っている。

委員：2年次の課題研究における研究の進め方はどのようなものか。

事務局：選択している講座によって異なる。ゼミ形式で生徒の伴走をしている先生もいれば、研究初期の

段階から研究テーマを絞って、生徒がより深く研究できるようにサポートしている先生もいる。大学院生の伴走アドバイザーは自分自身の経験を生徒に伝えたり、生徒が自ら考えることができるように適切な助言をしたりしながら、生徒の研究がうまく進むようにサポートしている。

委員：茨木高校の課題研究における伴走アドバイザーの存在の意義は大きい。伴走アドバイザーと生徒とのやり取りを見て、教員も刺激を受けているように思う。

事務局：数年前は探究の指導をしたいという先生が少なかった。しかしここ数年で様子が大きく変わってきた。今年初任者として本校に赴任した教員が、この1年間自身に取り組んできたことの振り返りをするため、合同発表会の会場に来ていた。その教員は今後に向けて大きなヒントを得たようだった。

委員：保護者向け公開授業の際に、研究成果発表の機会を設けてもよいのでは。

事務局：公開授業は秋なので、研究成果がまだまだまとまっていない時期である。どのような形でならいいのかについて検討を始めたい。

地域連携について

委員：今年度もボランティア活動など地域と連携した活動が多かったと聞いてとても嬉しい。このような活動をもっと積極的に発信してみてもどうか。

事務局：学校のホームページ等を活用して、外部に向けてさらに積極的に発信していきたい。

イマージョンプログラムについて

委員：イマージョンプログラムへの2年生の参加数が少ない。

事務局：この時期、2年生は部活動の中心になる。どうしても2年生の参加者が少なくなりがちである。大阪府の財政が厳しいことや教員の働き方改革もあり、こうしたイベントの継続が難しくなりつつある。しかし本校では英語科教員が府立高校の英語科教員を対象にした公開授業を企画するなど、英語教育に関する知見を広げている。このような知見を授業の中で生徒に還元できている。生徒がよりよい経験をすることができるように、英語教育をさらに充実させていきたい。

②令和8年度の学校運営協議会日程案について

第1回学校運営協議会 令和8年 6月 6日（土） 午後（予定）

第2回学校運営協議会 令和8年 10月 17日（土） 午後（予定）

第3回学校運営協議会 令和9年 2月 13日（土） 午後（予定）